

(1) 鹿瀨發電所竣工式當日堰堤全景(昭和3年12月15日)

## 我國唯一の低落差大發電所

### 東信電氣株式會社の 鹿瀨發電所竣工

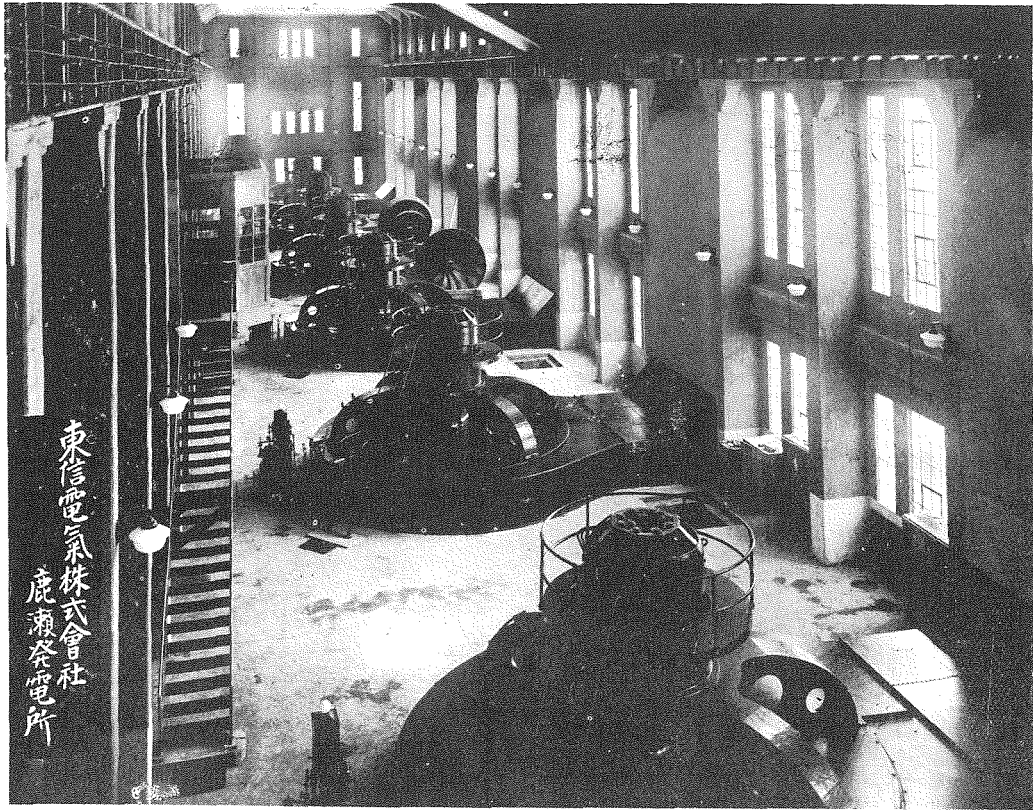
低落差の大發電所として我國第一の鹿瀨發電所の工事は昨年十二月落成して同月十五日盛大なる落成式を舉げた。

高落差としては田代川電力あり、低落差としては阿賀野川の鹿瀨發電所あり、兩者とも最近の竣工で著名なるものである。此の兩發電所の工事概要は今秋我國に開催さるゝ萬國工業會議の論文として指定されてゐる由である。

工事の詳細は次號に掲出の筈であるが竣工

式の模様を聞くに、昨年十二月十五日當日は非常な寒氣であつたが何しろ類例の少い大發電工事であるから東信電氣會社當局の氣遣も大したものゝ熱心なる來賓及關係者五百餘名が列席した。

常務浦山助太郎氏の開會の辭に次ぎ、社長鈴木三郎助氏式辭を朗讀して、次に三野技師長は工事の責任者として概略次の報告を發表した。次に廣岡逓信次官の祝辭、内務大臣の祝辭代讀、他に來賓の祝辭ありて式を終つた。



(2) 鹿瀬発電所の發電機室

### 三野技師長の鹿瀬発電所工事報告の概要

此発電所はダム式発電所と稱し毎秒時八千立方尺の水で四萬八千キロの出力を有し現在は四萬キロまでしてゐる、其最も特徴とする所は現代水力電氣界の趨勢に鑑み今迄の落差に依つて電力を得るに云ふ事よりも河川の面積を充分利用して豫定量の電力を得るを眼目とするために實は歐米各國に於ても特に進歩した最新の方法を採つたのである、仍て第一には地質の良好、第二には河川の勾配、第三には水路位置等に注意して詳細な調査を成した所即ち此地點を發見したのであるが我國では一時に四萬八千キロを出し得る発電所は極めて稀で此點大に木社の誇りとするものである、

有效落差七十四尺、堰堤は長さ一千九十三尺内七百十四尺は溢水堰堤、基礎は河床面以下二十五尺、コンクリート坪數二萬坪を要しチンターゲートは高さ三十二尺、幅三十尺、全部鐵製で其數二十門、洪水量約三十萬立方尺を排水す。發電機は九千四百キロボルトアンペア六臺、水車一萬二千五百馬力六臺、建物は長三百八尺、幅七十七尺發電所床下七十八尺を放水路底面として更に魚梯、筏流木等の施設には特に意を用ひ其工事並方法に就ては將來共絶對安全で而も完備したものである。(云々)

(工事寫眞圖次號詳報)